

行政視察報告書

令和3年9月16日

視察委員会名	総務委員会		
報告書作成者	副委員長 福沢 美由紀		
出席者氏名	委員長 前田 稔		副委員長 福沢 美由紀
	委員 新 秀隆		尾崎 邦洋
	前田 耕一		小坂 直親
欠席者氏名			
所管課職員 氏 名		事務局 職員氏名	議会事務局 大泉明彦 廣森 健一

視 察 日	視 察 先	視 察 目 的
8月17日	岐阜県高山市 (オンライン による視察)	○消防力の強化について ・伝統的建造物群保存地区での防火体制について ・初期消火における体制について ・消防団の取組について

●岐阜県高山市

■伝統的建造物群保存地区での防災の取り組み

高山市は、旧城下町において商人町として発達した伝統的な文化都市であり、上町及び下町の町並みには、貴重な建造物が数多く残されている。そのなかで三町地区と下二之町大新町地区の2か所は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、三町地区では平成7年度、下二之町大新町地区では平成17年度にそれぞれ防災計画を策定している。

三町地区では江戸後期から続く町屋が多く、木造家屋が密集しているため何度か大火災も発生していることもあり、その際に主屋裏手にある土蔵群が防火帯の役割を果たしていたことから、土蔵を伝統的建造物として特定することで、土蔵の整備に対しても補助（経費の80%、最大900万円）をすることでその機能を強化した。

また、消防水利の面では地区内にある市の施設に耐震貯水槽を2基（66t、100t）を設置し、そこから地区内の水路へ水を供給し、火災の際には水路をせき止めることで消火用の水を確保している。

■初期消火における体制について

木造住宅密集地である伝統的建造物群保存地区では、類焼防止のため初期消火が最重要課題のひとつと捉え、初期消火に使用する資機材等を貸与している。

高山市が貸与している資機材等

- ① 消火器
- ② 消火バケツ
- ③ 2号消火栓
- ④ 可搬ポンプ、側溝水止め板
- ⑤ 50mm消火栓

三町地区は、古くから地域の消防活動が盛んで、昭和54年に伝統的建造物群保存地区に選定を受けて以来、町並み保存活動が活発化し、自衛消防隊訓練も推進された。

そのため、保存会ごとに自衛消防組織があり、防災器具の管理や、定期的な訓練が自主的に行われており、市として活動補助金を交付している。

その一方で、旧高山地区では、消火栓3基に対し初期消火資機材が1式しかなく、設置率が低いことから課題となっており、自治会からの設置要望もあるため、設置率を向上させるよう検討をしている。

また、市の自主防災組織は、組織率100%となっているが、組織設立後10年以上が経過し、活動の縮小や、組織の高齢化などにより形骸化してきている部分があるが、「自主防災組織のための防災活動ガイド」を作成、配布し、円滑な防災活動が行われるよう支援している。

■消防団の取り組みについて

高山市消防団は、39分団、団員数1,765人で組織されており、常備消防との合同訓練を行って連携を強化しているほか、女性団員による一人暮らしの高齢者宅訪問や、火災予防運動に伴う各家庭の防火訪問などの火災予防運動を行っている。

また、消防団活動に対する意識調査（アンケート）の実施や、消防団組織等検討委員会を設置し活動内容について検討をすることで、消防団員の処遇や環境の改善など消防団改革の促進に努めている。

主な改善事例

- ・安全性の向上、公務災害の防止のため活動服及び安全靴を新基準適合品への更新
- ・デジタル無線などの資機材の整備
- ・自動車運転免許での準中型、AT限定解除のための費用の補助
- ・長期にわたり災害活動をした場合の特別報酬の創設
- ・出動手当の見直し

【所 感】

高山市は、2地区が伝統的建造物群保存地区に指定され、指定面積が約11.0ha、対象建造物計393件である。一方、本市（関宿）は、指定面積が約25.0ha、対象建造物計233件である。当市と規模による比較は単純にできないものの、土蔵も伝統的建造物として特定し、その整備に対して補助（経費の80%上限900万円）を設けている。土蔵群を整備することで、防火帯としての機能を強化し、火災を食い止める役割を持たせることは、この町が火災を経験する中で培われた延焼防止の策だと感じた。

また、木造家屋が大部分を占める伝統的建造物群保存地区では火災への対応が不可欠なものであり、類焼防止のために初期消火の重要性を改めて感じ、市の取り組みで初期消火にかかる資機材を貸与することは、初期消火体制を充実させ延焼を防止する観点からとても良い取り組みだと感じた。

なかでも、大型の貯水槽を設置し、その貯水槽から水路に水を供給し、側溝水止め板を使用してせき止めることで、緊急時には火災現場の消化水不足を解決するというのは非常に興味深かった。

初期消火については、ハード面での充実だけでなく初期消火を適切に行うことができるよう市民が日々の活動や訓練を行っているからであり、市民への防災意識の啓発や、初期消火の資機材を適切に扱える訓練等が重要であると感じた。

また、消防団の活動環境改善や処遇については、市の規模や人員に関係なく、消防団員の安全性の向上及び災害出動時の労苦に報いるために重要な要素であり、現状を良しとせず、より消防団員の活動しやすい環境へと改善していくことが、士気高揚や

団員の確保につながっていくのではないかと感じた。さらに、高山市も、活動の縮小や高齢化を課題としていたが、これは本市においても当てはまることであり、検討が必要なことであると感じた。